

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IUMS分科会

更新日 2012/6/29

(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際微生物学連合

(欧文) International Union of Microbiological Societies

(略称) IUMS

日本学術会議加入年(西暦) 1953 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Executive Board

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Geoffrey L. Smith	Yuan Kun Lee	Stephen A. Lerner/Pierre Talbot	Robert A Samson
(国)	United Kingdom	Singapore	USA/Canada	Netherlands

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

IUMSの理事は、IUMS総会において選出される。構成は、President、Past President、Vice President (2名)、Secretary General、Treasurer、Member at Large (2名)、ChairmanおよびVice Chairman (各Division) からなる。

加入国・地域の数 68 ケ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

カナダ、中国、フランス、ドイツ、オランダ、スペイン、英国、米国、韓国、日本

国際学術団体のホームページURL

<http://www.iums.org/>

国際学術団体の年間運営経費

US\$116,479

日本の分担予定額[事務局で記入]

729千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2011年	IUMS2011	札幌	4300	2850	有
2008年	IUMS2008	イスタンブール	2100	100	無
2005年	IUMS2005	サンフランシスコ	3000	220	無
2002年	IUMS2002	パリ	4000	150	無
1999年	IUMS1999	シドニー	4000	150	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2011年	General Assembly	札幌	40	永井美之、富田房男、野本明男 (代理 篠田純男)	1
2008年	General Assembly	イスタンブール	78	光山正雄、富田房男	1
2005年	General Assembly	サンフランシスコ	※	小熊恵二、富田房男	2
2002年	General Assembly	パリ	※	篠田 純男	1
1999年	General Assembly	シドニー	※	渡辺信、篠田純男	2

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology
 Microorganisms in Foods
 International Journal of Food Microbiology
 Archives Virology

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;">国際機関等の提唱で行った活動</p>
<p style="text-align: center;">国際機関等への提言等</p> <p>IUMSでは特に、生物兵器等における微生物の使用を防ぎ、市民の健康を保護するために、biosecurityと研究における倫理行動の促進を通して、世界平和の実現に努めている。</p>
<p style="text-align: center;">国際事業等への参加・実施等</p> <p>国際的非政府組織としてIUMSは、他の国際組織（国連、ユネスコ、WHO、IUBS等）とコンタクトをとりながら、微生物学の研究を促進する。</p>
<p style="text-align: center;">全世界的/地域的研究課題への取組み</p> <p>IUMSは全世界において微生物学の研究を促進し・支持すると共に、研究者間のコミュニケーションを促進することにより、人類の健康の増進と環境の福祉のための活動を行うことを目的とする。</p>
<p style="text-align: center;">発展途上国への対応</p> <p>発展途上国における微生物学者に対し、研究活動の支援および情報交換の促進を実施している。</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>ウイルス学、細菌学、真菌学などの微生物学は、生物多様性、環境保全、バイオテクノロジー、新興再興感染症、バイオテロなど多くの研究領域を包含しており、先端生命科学研究の対象として重要であるばかりでなく、地球環境の維持等、人類の未来にとっても非常に重要な意義を持つ。</p>

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
Vice chair Virology Division	河岡 義裕	2012	2015
Ambassador for Asia	富田 房男	2012	2015
Vice President	永井 美之	2008	2011

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUMS分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

日本微生物学連盟

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本農芸化学会	12000	http://www.jsbba.or.jp/
日本生物工学会	2300	http://www.sbj.or.jp/
日本細菌学会	3000	http://www.nacos.com/jsbac/
日本感染症学会	10000	http://www.kansensho.or.jp/
日本ウイルス学会	3000	http://jsv.umin.jp/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

IUMS分科会
基礎生物学委員会・農学委員会・食糧科学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
上田 一郎	笹川 千尋	平山壽哉	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
3名	7名	1名

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

当分科会は、国際的に設置されているIUMSに対応する、我が国の代表組織である。IUMSは、ウイルス学、細菌学、真菌学などを含み、生物多様性、環境保全、バイオテクノロジー、新興再興感染症、バイオテロなど多くの研究領域がある。地球環境の維持、人類の未来に貢献することを目指す。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/4/25	総合微生物分科会と病原体学分科会と合同で、「デュアルユース問題」とBSL-4施設について取組むこととした。
2012/1/25	IUMS分科会の委員長上田一郎、副委員長笹川千尋、幹事平山壽哉を選出。今後は、総合微生物科学分科会、病原体学分科会と連携を取りながら活動することを確認。
2011/6/11	IUMS 2011(札幌)の準備、運営に関わる諸課題について引き続き議論を行った(プログラム案、会議進行計画、演者調整、資金計画、各学会との調整など)。
2010/12/27	IUMS 2011(札幌)の準備、運営に関わる諸課題について引き続き議論を行った(プログラム案、資金計画、各学会との調整など)。
2010/5/17	IUMS 2011(札幌)の準備、運営に関わる諸課題について引き続き議論を行った(プログラム案の調整、資金計画、各学会の参加形態・参加登録方法など)。
2010/10/8	IUMS 2011(札幌)の運営に関わる諸問題について引き続き議論を行った(各学会のIUMS 2011への参加形態、プログラム案の作成、資金計画など)。

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

国内の関連学協会および日本微生物学連盟より、総会等における周知および機関誌・ホームページ等による広報を実施している。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

国内の関連学協会の連合体である日本微生物学連盟の活動(会議の開催、連携体制の構築、情報の共有化等)を中心として、連携強化を推進している。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

当分科会は、今後総合微生物科学分科会、病原体学分科会と連携を取りながら、微生物の諸問題に関する社会的貢献を行っている。